

今村復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見
(平成28年12月3日(土) 1615~1622 於) 福島県猪苗代町)

1. 発言要旨

今日は福島市、郡山市、会津若松市、そして猪苗代町を続けて訪問いたしました。

郡山市では、第3回ふるさと創造学サミットを見てまいりまして、これは双葉郡の方から避難している皆さん、子供たちの発表会ということでありまして、本当に子供というのはすばらしいなと思ったのは、やはり大人が目線以上に自分たちのアイデア、そしてまたふるさとの良さをしっかりつかんでアピールしているということを感じまして、特に人口をどうやって増やすかというテーマをやっている子供たちもいて、なるほどなと思うことを言っていました。だから、被災して避難して大変だろうなと思ったけど、本当に元気いっぱいやってくれていたのが安心しまして、地域の未来が正に子供の未来にかかっていると言いますけれども、私たちもこの子供たちの頑張りを本当に無にしないように、子供たちのためにも我々は頑張っていかなきゃいけないなということを改めて感じたところでございます。

それから、会津若松市では、商工会議所会頭の渋川さんから会津若松の町並み、あるいは歴史的なことも含めていろいろと意見を交わしまして、我々もほんのちょっとでありましたが、町並みを歩いたわけでありまして。越後街道の正に入り口ということで、昔の大変なにぎやかさを持っておりますし、そして、何といたっても今の日本ならではの持っている良さといいますか、今の東京にはない良さというものを改めて感じました。そして会頭さんにも言ったんですが、今非常に外国からのインバウンドでお客さんが多いわけですね。この人たちを見ていますと、やはり単なる物見遊山じゃなくて、いろいろな歴史とか文化とか伝統とかそういったものに非常に興味を持って来ているんですよ。ということはこういうことかということ、そういうものがたくさんある古い町ほどある意味では実はすばらしい財産があるんだということを改めて感じまして、これはある意味では日本のソフトパワーの一番の源泉でありますから、是非これからいろいろな意味でのそういうインバウンドを中心にして日本の郡や、あるいは田舎の町がどれだけすばらしいものを持っているか、それをしっかり生かして世界にもアピールをし、それから地方創生の力にも是非やっていきたいなというふうに思っております。

それから、猪苗代町に来ていますが、会津若松の話でもいろいろ言いましたが、もう一つ日本のふるさとのすばらしいのは、食べ

物がいいことなんです。これはやはり中山間地で非常に条件不利なところをつくっているわけですがけれども、逆にそういうところは非常に四季折々の変化が非常に大きいし、それから昼と夜の間の温度差であるとか、やはり山が深いから、そこで落ちてきた葉っぱによって非常に栄養分豊かな水がある。そういったものがやはり日本の農産物の非常にすぐれた安全・安心、そしておいしいということになってきておりました、もう量じゃなくて正に質だと、そういったものを痛感しました。猪苗代でも、本当に見るからにおいそうな食べ物がいっぱい、野菜類も含めてあるわけでありまして、そういったさきほどの会津若松での町並みの良さ、そしてこういった日本の農産物、いろいろな食べ物の良さ、そういうものをミックスしてやっていくことがこれからの地方創生の大きな力になるんじゃないかなというふうに思います。

併せて、ここは非常に交通の要所なんです。新潟の方からの道もあるし、それからちょっと足を延ばすと、いわゆる中通りの方にもつながっていくわけなのであって、そういう意味では今言った地域の資産をしっかりと生かしていく上では、やはり交通網の充実ということをやっつけていかなきゃいけないし、またできるだけ使いやすい仕組み、料金なども含めてですね、やっていくということがこれからも非常に大事なんじゃないかなということに改めて感じたところがございます。

それから最後になりますが、町長さんの方から、地熱発電の話がありました。これは考えてみると、安積疏水、まさに水力発電の元祖でありますから、そういう意味では再生エネルギー云々ということもこれから大きく町を潤わせていくわけで、非常にすばらしいんじゃないかな、是非応援をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 先程、会津の環境のすばらしさというお話をいただきました。

その中で地方創生にも生かしていくとおっしゃいましたが、昨日、山本地方創生大臣が、東京一極集中を緩和する意味でも非常にいいプロジェクトだとしてカジノをたたえていたという発言がありました。果たして地方創生と被災地の復興というんですか、被災地の復興でもカジノというのは役に立つというふうにお考えになっていらっしゃるのでしょうか。

(大臣) それはいいよりはあった方がいいのかもしれませんが、むしろ、あのようなものは世界どこでもできるんですよ。そうでしょう、シンガポールでもどこでも上海でも。けれども、やはり日本

ならではの良さというかそういったものをもっと生かしてやっていくということが本当の意味で大きな地方創生の力になるんじゃないかなということでありまして、むしろ我々はふるさと派でいきたいと思っています。

(問) なるほど、分かりました。

(大臣) 町長さんからひとつことどうぞ。

(町長) 猪苗代の道の駅は、人、物、情報、そして会津、そして福島県を元気にする道の駅にしていきたい、そういうものにこれから経営をしていきたいという考えでございますので、是非皆さんでPRしていただきたいと思えます。

(大臣) 今聞いたら、約10日間ぐらいでもう5万人来たというから、このままいくと1年間に180万人になるんだよ。もともと予定が50万人ということでしたから、大変なことですから、是非この勢いをそのまま続けていただいでほしいです。

(以 上)